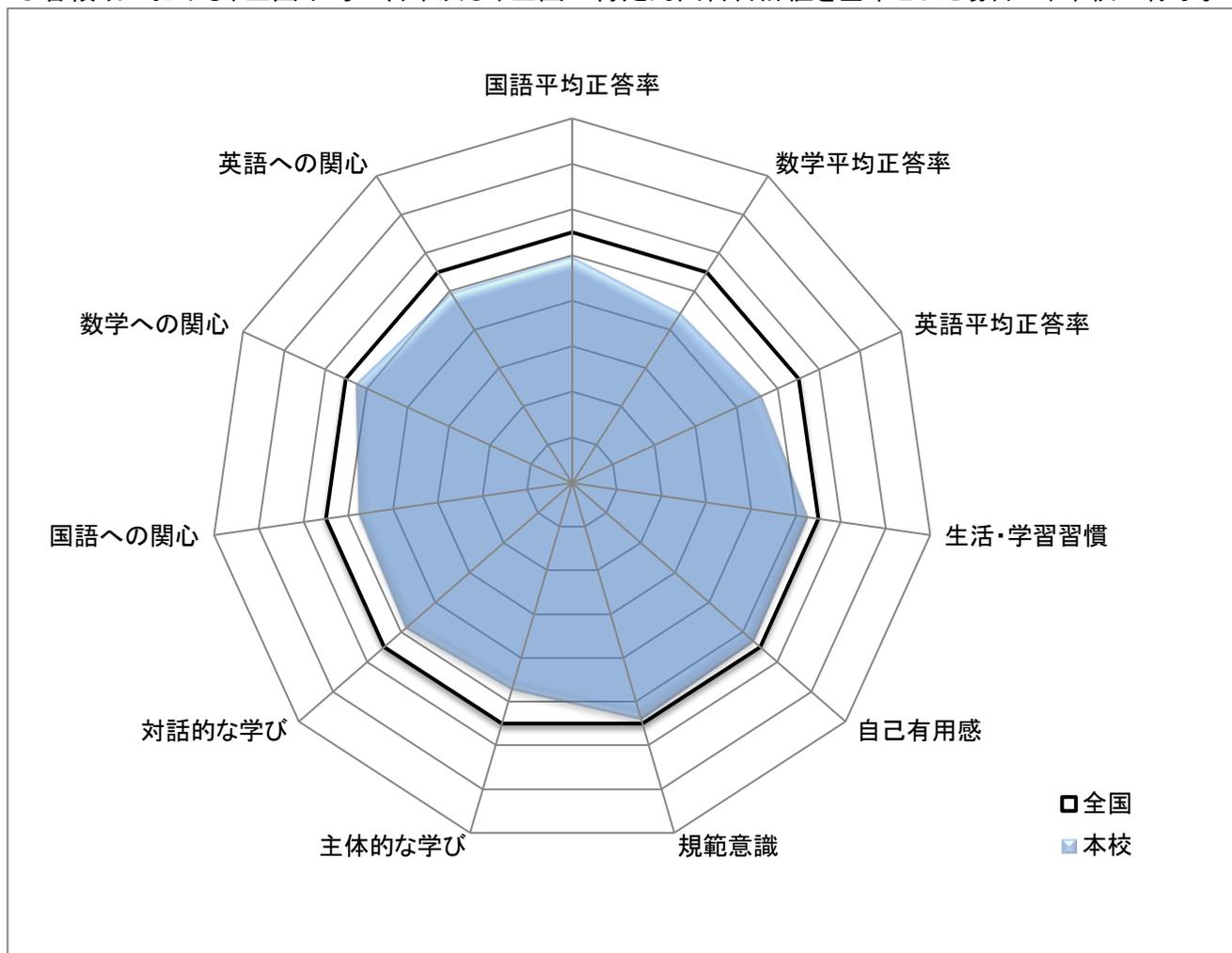


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】
国語への関心は一番低く、「話や文章の組み立てを工夫しているか」について肯定的な回答をした生徒は半分以下である。

【数学】
数学は大切な教科だと理解しているが、好きにはなれず、理解できないまま進級している生徒が多い。

【英語】
英語も大切な教科と理解しているが、苦手と思っている生徒が多い。

《授業改善のポイント》

【国語】
個々の生徒の状況を把握し苦手な生徒に対し、興味関心を高めながらある程度まとまりのある文章を書く機会を組み込み、条件を与えて論点を分かりやすく書く指導をする。

【数学】
数学への学習意欲を高めながら基礎基本を帯で毎時間とり、定着を図る。その上で課題を解く過程に重きを置いて指導に当たり、課題解決の学力がつくよう指導する。

【英語】
英語では語彙力の向上に加え、文法の理解を対話の中でも意識し、学び教えられるよう時間を多く取り入れ効率よく定着させる。

《チャートの特徴》

生活・学習習慣、自己有用感、規範意識などの質問項目については、全国をやや下回っているが、2ポイントから5ポイントのマイナスであった。教科への関心については、昨年度に引き続き数学が高いが、全国を越えていた前年度より、今年度は下回っていた。正答率については全国より11ポイントから21ポイント低く、関心の高かった数学が、正答率では一番低かった。主体的な学びが15ポイント、対話的な学びが13ポイントそれぞれ全国より低い値であった。

《家庭・地域への働きかけ》

本校の現状及び課題について、三者面談や保護者会、学校だよりなどを通じて認識してもらい、家庭学習の大切さを理解させ、学習時間の増加や、学習環境の改善などを呼びかけ、定着を図る。